

REPORT

桜満開の入職式

2025年4月1日、医療法人共和会では28名の新入職員を迎え、桜満開の中で入職式を行いました。法人会長・病院長挨拶の後に、新入職員代表から「患者様に寄り添い、その人らしい暮らしを支えることの出来る職員を目指し、日々精進して参ります」との宣誓文が読み上げられ新たなスタートを切りました。新入職員は福岡県出身者が多いようですが、近隣他府県、遠くは東北出身者もいました。共和会を選んだ決め手として、「病院見学の際にスタッフが患者様に明るく笑顔で接していて、温かい雰囲気が印象に残ったから」「地域と深く連携した医療を提供していること」など私ども組織の活動に魅力を感じて入職して頂きました。社会人としての成長、地域と共に歩んでいける専門職になって頂けることを期待しています。2025年新人達...がんばれ!



◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停(セブンイレブン前)より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院 / 介護老人保健施設 伸寿苑 / 共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668 (代表) FAX.093-581-3319 (共通)

〒803-0861 福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!



Careline

KYUWAKAI Press 「ケアライン」2025 春号 / 相談しやすい病院を目指して—小倉リハビリテーション病院「連携・広報室」の取り組み—

発行 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院「連携・広報室」の取り組み

Careline

KYUWAKAI Press ケアライン

2025

春号

特集 “相談しやすい病院”を目指して

—小倉リハビリテーション病院「連携・広報室」の取り組み—

REPORT 桜満開の入職式

「2025年問題にさらなる改革が求められる」

令和7年度がスタートしました。“2025年問題”として団塊の世代が後期高齢者となりいよいよ超高齢社会を迎えます。医療・介護需要がピークを迎え、そのシステムや人材不足が深刻化するとされ、今後はさらなる人口減少、経済成長の鈍化...そして地方衰退も課題となってきます。これまでやってきた対応が通じない時代となり、さらなる改革が求められてきます。私ども共和会もそうした影響下にありますが、5年後...10年後の姿を見すえ運営を考えていかねばなりません。

さて今号のケアラインは病院運営の要(かなめ)ともいえる連携広報室の活動を紹介しました。連携室は地域と病院を結ぶ架け橋としての役割がありますが、中でも関係機関との連携がスムーズに行われるよう、活動を広く知って頂けるよう努めています。またレポートでは今月1日に入職した28名の新人職員を紹介しました。今は入職式も済ませ新人研修に追われていますが、こうした若い職員たちが私ども組織...そして地域社会を担っていくことを期待しているところです。ご一読いただければ幸いです。

令和7年4月 医療法人共和会 連携広報部長 井上 崇



高塔山の紫陽花(若松区)

“相談しやすい病院”を目指して

—小倉リハビリテーション病院「連携・広報室」の取り組み—



1

多職種連携で支える入院の窓口



小倉リハビリテーション病院の「連携・広報室」は、患者様が安心して当院での入院生活を始められるよう、地域や紹介元医療機関と病院をつなぐ役割を担っています。2004年に設置し、看護師1名、医療ソーシャルワーカー(MSW)1名、事務2名の体制で運営しています。主な業務は、入院調整、受診・転院調整、院内外の連携、医療相談、見学対応、そして広報活動と多岐にわたります。

高齢化が進む北九州市では、独居や高齢夫婦のみ世帯が増えており、当院に入院される方の4人に1人は独居世帯です。家族の支援が得られないケースや、意思決定能力に課題がある方、金銭管理や保証人の問題を抱える方も増加傾向にあり、医療機関単独では対応が難しい状況も多くあります。そのため当室では、地域包括支援センターや行政、福祉サービスなど他機関との連携により、患者様が安心して入院できる体制づくりに注力しています。

2

スピーディかつ柔軟な入院調整体制

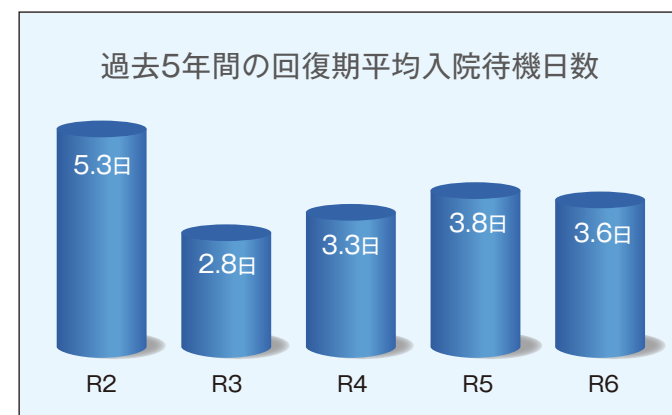


診療報酬上、回復期リハビリテーション病棟の入院基本料1では重症患者の受入れをより一層求められ、急性期病院から入院するまでの期間がさらに短くなっています。当室も相談から入院までの調整期間の目標を「2.5日以内」とし、入院調整を行っています。

病床の効率的な運用のため、連携・広報室では毎日病棟の空床や患者様の状態を確認し、病床管理委員会や各種ミーティングに積極的に参加し、迅速なベッド調整に努めています。多職種や後方支援チームと連携を深め、適切なタイミングでの入院調整を行っています。

また、急変時の逆紹介(急性期病院への再転院)も増加しており、その際の受診・転院調整も当室にて病棟と連携し対応しています。

さらに、今後はコロナ前同様可能な限り紹介元を訪問して、患者様に直接顔を合わせることも努め、安心して入院できる環境づくりをしていく予定です。



3

若年層支援と「つながり」を軸にした地域連携



当院では、高齢者だけでなく、復職や復学、子育てを目指す若年層のリハビリテーション支援にも注力しています。これらの支援は、医師、看護士、リハビリテーションスタッフ、MSW、薬剤師、管理栄養士、歯科医・歯科衛生士の多職種による専門チームが連携し、それぞれの専門性を生かして、患者様の生活再建をサポートしています。

当室は、その第一歩として入院前の受け入れ調整を担い、若年患者様のスムーズな入院につながるよう、紹介元との情報共有を行っています。入院後は専門チームが中心となって、職場や学校との連携や、必要に応じた見学訪問などを行い、退院後の復帰に向けた支援を進めています。こうした取り組みは、これまでに多くの若年患者様の社会復帰につながってきました。広報活動を通じて、若い世代にも「相談しやすい病院」として認知される体制づくりを目指します。

また、患者様がこれまで築いてきた家族や友人、地域との関係性を尊重し、その人らしい生活再建を支援する「つながり支援」の考え方を大切にしています。若年層・高齢者を問わず、社会とのつながりは回復の大きな力になると考え、法人全体で認知症カフェ、介護予防活動、障がい者スポーツ支援、セルフヘルプグループ支援など、地域に根ざした活動を積極的に取り組んでいます。今後はICTやDXの活用によって情報共有の効率化を図り、病院訪問が難しい場合でもオンラインによる面談や会議を活用し、「顔の見える連携」を継続してまいります。地域の急性期病院をはじめ、診療所やケアマネジャー、地域住民などから「相談しやすい病院」として頼りになる連携室を目指し、まずは何でも相談頂ければと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

